

表6 昭和58年度福島県芸術祭主催行事

行事名	期日・時刻	会場	内容
オープニング フェスティバル	9月4日	いわき市文化センター	1. 箏曲(六段)演奏会 2. いわきの民謡正調と合唱 3. 日本音楽集団演奏会 入場料300円
	13:00~15:00		
いわき小劇場公演	9月16・17日	いわき市文化センター	「看護婦のおやじがんばる」3幕6場 入場料1,000円
	18:20~20:40		
総合華道展	9月23~25日	いわき市文化センター	池坊、小原流、三翠流、龍生派、松風流 盛花、梶井華道会 計6流81点 入場料300円
	9:00~18:00		
詩祭	10月2日	いわき市文化センター	講演と朗読の集い 講師 小海永二氏
	10:00~17:00		
茶道大会	10月23日	いわき市文化センター	裏千家流、表千家流、宗偏流 お家流による茶会
	10:00~17:00		
グランドフェスティバル いわきの道	10月30日	平市民会館	序曲、市民オーケストラ、第1景洋舞 第2景合唱、第3景民謡 フィナーレ 入場料300円
	13:00~15:00		
俳句大会	11月6日	いわき市労働福祉会館	講師 金子兜太氏 投稿料及び昼食代1,000円
	10:00~16:00		
短歌大会	11月13日	いわき市労働福祉会館	講師 窪田章一郎氏 投稿料2句1,000円
	10:00~17:00		
川柳大会	11月27日	いわき市文化センター	講師 藤島茶六氏 森中恵美子氏 参加料1,000円
	10:00~17:00		
三曲演奏会	11月27日	平市民会館	県内各地区教授者による合同演奏会 入場料500円
	10:00~16:00		
生活芸術展	11月26~28日	小名浜公民館 小名浜市民会館	木彫、陶芸、染織、金工品、漆工品、 人形、張り人形、押絵、はり絵、編物、 染色、手芸、民芸品、造花、盤景、その他
	10:00~18:00		
福島現代美術展	11月21~30日	いわき市文化センター	83、明日への展望 本県に關係の深い作家約25名の作品 50~75点を展示
	10:00~18:00		

成されているが、主催行事は、昭和四十六年度から、県内二地区の持ち回りで実施し、参加行事は全県下において実施している。
今年度は、いわき地区が主催行事開催地区となり、十二の主催行事が実施された。(表6)

また、参加行事も全県下において、各文化団体の自主的、かつ、特色ある行事が九十一行事実施された。
十二 福島県文化センター
昭和四十五年九月に、県文化センターが開館して以来、その管理運営は、

財団法人福島県文化センターに委託している。開館十三年の歩みは、多種多様な市民の文化的欲求に応え得る文化センターづくりを念頭に置き、その運営にあたってきた。
自主企画による事業活動は、広く県内各地域に活動範囲を拡げる「移動文化センター」事業を

重点として、各市町村との連携と協力のもとに少年劇場、家庭劇場の舞台事業を始め、郷土史講座、講演会、研修会事業を実施した。
一方、低廉な料金で優れた舞台芸術鑑賞の機運を醸成することをねらいとした文化庁移動芸術祭公演、交響楽公演の事業も、年毎に理解を得て好評を呼んでいる。
美術展は恒例となつた「院展福島展」「スイスブチパレ展」「一水会福島展」と内外一流の美術展示で多くの美術ファンを楽しませた。昭和五十八年度の事業概要は別表のとおりである。(表7)



県芸術祭オープニングフェスティバル

次に五十七年度の当館利用状況であるが、二カ年計画の大ホール音響設備が新装されたことにより音楽会の利用が増え、大ホール以外の施設利用が横這い又は減少したにもかかわらず、前年比で利用日数、入場者ともに六%の増加をみて、三十六万五千余人の入場者を得た。施設別の主な利用状況は、大ホールが一四八件(二十一万五千余人)、小ホールが一九〇件(四万五千余人)と、大ホールは二十五%の伸びをみせている。その利用内容は約五〇%が音楽会の利用で、その他演劇、舞踊等の舞台芸術関係利用と式典、大会等の一般催事利用の割合は七対三となっている。

美術博物館は、二階展示室が二十二